

# 令和 2 年度事業報告書 — 白楽荘・医務室 —

テーマ：自立した生活が送れるように、より良いチームケアの提供と地域支援体制の強化を図る

サブテーマ：多職種との連携・協働により安心できる看護を提供し、「その人らしく生活すること」を支援する

## 1. 安全で安心した生活が送れるよう健康管理を行う

- ① 日々の状態観察、バイタルチェックにより、異常を早期発見しクリニックへ報告、対応ができた。
- ② コロナ禍の中、面会が制限され、家族とのコミュニケーションは電話か、ムンテラ時のみとなっているため、体調不良時には早めに電話連絡し家族の意向を確認し、信頼関係の維持に努めた。また、新型コロナに職員 1 名が陽性者として発生したため、濃厚接触者と認定された入所者への対応は、担当職員を限定、ご家族にも情報は細かに説明を行い不安解消に努め、感染対策の徹底に努めた。
- ③ 他職種間の情報共有とケアの統一を図ることで安全・安心な看護を提供することができた。

## 2. 安楽に過ごせるよう、その人に適したポジショニングを行う

- ① 他職種連携を図り、OT による指導の下、統一したポジショニングを継続できるよう努めた。入所者の高齢化、重度化により拘縮の進行を防止することはできないが、少しでも安楽に過ごせるよう定期的に評価し、ポジショニングの見直しを行った。
- ② コロナ感染防止の観点から、研修会は WEB で行ったが、入所者の安全対策強化のため対応に追われ、参加率が低くなった。委員会やチームごとに助言・指導の回数を多く行った。

## 3. 働きやすく魅力ある職場づくりを行う

日頃からコミュニケーションは取れており、感謝や労いの言葉を掛けるよう努めた。また、業務が滞りなく遂行できるよう助け合い、協力できた。申し送り簿を活用し、新しい情報を伝達共有することができた。発言の少ないスタッフには状況に応じて助言し、少しずつ自分の考えを伝えられるようになりチーム力の向上に繋がった。

## 4. その他

- ①職員にコロナウイルス感染者が発生したため、不安と緊張の中、3日間は完全防護服着用でのPCR検査の協力を行った。また検査結果が出る翌日の午前中までは、防護服を着用し最少減の人数で業務にあたるなど、完全防護服を着用しての業務の大変さについては、身をもって感じる事ができた。
- ②今回は職員・入所者とも全員陰性であり、クラスター等の感染拡大を防ぐことができたが、濃厚接触者及びそのチームの対応については反省点もあり、結果を踏まえて今後の感染対策に活かしていきたい。
- ③感染者以外の職員や入所者が全員陰性であっても、風評被害は大きく、精神的苦痛を受けた職員もいる。また、ショート利用者が状態悪化し救急車を要請したが、受け入れ先が決まるまで駐車場で長時間待つこととなった。このことは今後の非常に大きな不安材料である。
- ④昨年9月の新型コロナウイルス感染拡大対策チーム・感染管理認定看護師による訪問指導や、10月の福祉施設クラスター対応図上訓練による指導を受けたが、1月20日に陽性者が発生したことで、実際行動してみると思うように動けず、定期的な研修やシミュレーションが必要だと実感した。